

BOOKMORNING!

from 学校図書館



読んでみませんか？ 学校司書
おすすめの本

子どもたちと読み継いでいきたい加古里子の本

7月、8月にかこさとし(加古里子)さんの特別展やおわかれの会が開かれています。加古さんは、今年の5月2日に92歳で亡くなられた作家です。『からすのパンやさん』『どろぼうがっこう』などは、子どものころに読んだ思い出をお持ちのかたも多いのではないのでしょうか。加古さんはおはなしの絵本や科学的にわかりやすく書かれたさまざまな種類の本を約600冊出されています。

学校図書館でも加古さんの著書を集めたコーナーや紹介をしました。6月の歯の衛生週間に『はははのはなし』を読みはじめると、子どもから「はみがきをしてもむしばができる」との声が出ました。丈夫な「は」は丈夫な体づくりに結びついていることへ、子どもの視野を広げるように本がつくられていました。

出版から50年以上も愛され続けているのが『だるまちゃんとてんぐちゃん』シリーズ。日本の郷土玩具を主人公にしたお話でありながら、自然や科学の知識が織り込んであって、子どもたちに科学読み物へと橋渡しができる絵本でもあります。

2018年1月には、シリーズの続きとして東日本大震災、福島原発事故、沖縄の方々の苦労に思いを込めた3冊の新作絵本が、同時刊行となりました。『だるまちゃんとキジムナちゃん』では、沖縄の民話に登場する「キジムナー」とよばれるイタズラ子がだるまちゃんの相手です。だるまちゃんは、夏のはじめ、だるまどんにつれられて沖縄の島に行きます。そこで、自然の恵みと平和のくらしを守るニライカナイのかみさまへのお礼のおどりやお祭りを見ます。ところが、地元のいしみね先生とお客のだるまどんが、ばけものハブに襲われてしまいます。ものすごい対決と、ユーモラスな加古里子ワールドが展開し、思わず笑ってしまう楽しいお話になっています。

加古さんは、19歳で敗戦を迎えました。「終戦」と言わず「敗戦」と言われています。)そして、子どもたちに、ちゃんと自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の力で判断し行動する賢さを持つようになってほしいと考えるようになったそうです。また、加古さんは「大人が力を注ぐべきことは、子どもが興味を持った世界に一步ずつ入り、深いところまで行き着けるよう誘うこと」と語って、本づくりをされていました。

子どもたちとともに、読み継いでいき、平和や自然への考えを深めていきたいと思えます。